

わおん 通信

2025
vol.55

CONTENTS

P1 - P2

プラスチック問題シンポジウム開催
「うみわかまもる隊員任命式」(うみわかまもるプロジェクト)を開催しました！
加太の海岸をみんなできれいに☆(うみわかまもるプロジェクト)
推進員さん「ひょっこり」訪問記 岸本勇樹さん(紀の川市)

P3 県情報

第24回わかやま環境賞の受賞者が決まりました！
「和歌山県環境ポータルサイト」開設！
和歌山県気候変動適応センターの活動

P4 INFORMATION

プラスチック問題 シンポジウム開催

開催日：2025年2月9日

主催：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

場所：橋本市教育文化会館

マイクロプラスチック汚染をはじめ世界的に問題となっている「プラスチック問題」をテーマとしてシンポジウムを開催しました。環境問題に関心のある約100名が参加し、現状を理解するとともに、プラスチックを削減するためにはどうすればいいかを共に考えました。

まず初めに、環境省による基調講演「プラスチック資源循環の推進」では、国レベルの取組の紹介が行われました。その後、橋本市立城山小学校（児童によるプラスチック削減にむけた取組）、花王株式会社（詰め替えパックによるプラスチック削減）、NPOクリーン＆コネクト和歌山（紀の川の清掃活動）、加太・友ヶ島環境戦略研究会（友ヶ島漂着ごみの分析）、国土交通省・和歌山港湾事務所（「海和歌丸」による環境整備事業）の5団体から活動報告が行われました。

報告では、生分解性素材へ切替える活動など、プラスチックごみ削減に向けた、優れた取組が紹介されました。

続いて行われた情報共有セッションでは、発表者

と参加者が意見を交わし、「プラスチック問題を自分事として捉える」「ごみ拾いなど身近なことから始める」といった提言がまとめられました。

今回のシンポジウムは、県をはじめ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町、各教育委員会、報道機関の支援を得て、参加者の当事者意識を高めるたいへん有意義なシンポジウムとなりました。



橋本市立城山小学校の発表



情報共有セッションの様子

執筆：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

「うみわかまもる隊員任命式」(うみわかまもるプロジェクト)を開催しました!

開催日: 2025年3月9日

主催: NPO法人わかやま環境ネットワーク

場所: 本町公園 (和歌山市)

ビーチクリーン活動に参加するこどもたちを「うみわかまもる隊員」として任命する式典を毎年3月に開催しています。

当日は、環境漫才師「SDGsBOYs」のSDGsの16番目の目標である「平和と公正をすべての人に」をテーマにした漫才(“争いや暴力をなくし、こどもの権利が守られ、誰もが平和で安全な環境で暮らせる社会を実現するにはみんなで力を合わせることが大切”といった内容)や「和歌山大学教育学部附属小学校4A」「和歌浦小エコエコクラブ」による環境学習の発表後、こどもたちに、隊員証やバッジなどの記念品を授与しました。

2020年から始まったこのプロジェクトは、今年40名を隊員に任命、隊員数は延べ350名を超えました。

こどもたちが地域の自然を守る活動に関わる機会として、この取組を継続していくことの大切さを改めて実感する一日となりました。



執筆者: NPO法人わかやま環境ネットワーク

加太の海岸をみんなできれいに☆ (うみわかまもるプロジェクト)

開催日: 2025年6月15日

主催: 和歌山県ホンダ会

協力: NPO法人わかやま環境ネットワーク

場所: 加太海水浴場 (和歌山市)

和歌山県ホンダ会(県内のホンダ販売店で組織されている団体)が主催し、地元加太の皆さまをはじめ、株式会社タカショーデジテック、和歌浦小エコエコクラブなどから約150人が参加のもと、ビーチクリーン活動を行いました。活動では、ホンダ製の海岸清掃用重機「ビーチクリーナー」が登場し、参加者の注目を集めました。風雨によって打ち上げられた流木など総重量153kgもの漂着物が回収されました。

また景品として贈られたホンダビーチクリーン活動の応援団長“さかなクン”のエコグッズに、こどもたちは、笑顔を浮かべていました。

企業や地域の団体が協力して地域の環境保全に取り組むこのイベントは、今後の活動の大きな弾みとなることが期待されます。



執筆者: NPO法人わかやま環境ネットワーク

推進員さん ひょっこり 訪問記

第20期 岸本勇樹 さん(紀の川市)

紀の川市にお住まいの岸本勇樹さん(47歳)は、脱炭素や森林関係のお仕事をされています。

岸さんは、大阪で生まれ育ち、京都府立大学農学部卒業後、食品会社を経て和歌山県庁で19年にわたり県内の森林政策全般に携わりました。2年前に退職、現在は中小企業診断士、森林インストラクター、森林環境教育支援者、また「株式会社森のエネルギー研究所(東京本社)」の関西地区の担当をされています。

推進員への応募動機は、県庁時代から温暖化対策に関心があり、里山整備の活動で出会った推進員からの誘いがあったからとのことです。推進員の肩書を持つことで、活動の幅が広がったそうです。

具体的な活動は、講師として「温暖化の現状と未来予測」「森林のCO₂吸収源としての温暖化防止の効果」「脱炭素の先進地事例紹介と解説」等県内各地で講演し、木質バイオマスの普及啓発(ペレット、チップ製造の現状は厳しくなっているとのこと)や自治体の森林政策の支援、林業に関わる中小企業の脱炭素経営の支援と多岐に渡っています。

家族でキャンプに行くこともよくあり、森の中で遊んだり、キノコを食べたり(キノコマイスターでもある)、野草を使ってコーヒーやコーラを作ったりして、楽しんでいるとのことです。また自宅には、太陽光発電やエコキュートの設置をしているそうです。

岸さんは語気を強めて、「自然を循環させることがCO₂の削減になる。」「森が一番のCO₂の吸収源。知恵を寄せ合い、課題解決し前進できる時代になったと感じている。目先の損得ではなく、未来を見据えて考えていけば、今後の活用次第でチャンスが広がる。未来志向で行きたい。」と訴えます。そして「江戸時代の生活に戻れとは言わないが、炭や薪がエネルギーとして今後も大事、温暖化への適応も大切、薪ストーブのある家に住むことが夢!」と語っていただきました。今後も推進員として、多方面での活躍を期待しています!!

第24回わかやま環境賞の受賞者が決まりました！

県では、平成14年度に「わかやま環境賞」を創設し、毎年、県内において優れた環境保全活動を行う個人または団体を表彰しています。

表彰を通じて、受賞者の活動事例を広く紹介することにより、県民の皆さまの環境保全に関する意識向上と環境保全に関する行動の促進を図ることを目的としています。

6月30日に県庁で表彰式が行われ、知事から受賞者へ表彰状と盾が授与されました。

今回受賞された皆様の活動内容は以下のとおりです。



表彰式の様子

賞	受賞者	市町村	活動の内容
わかやま環境大賞	すさみ町立エビとカニの水族館	すさみ町	こどもたちが生物とふれあえる巡回水族館の活動による環境教育の推進
わかやま環境賞	中田食品株式会社	田辺市	独自技術により梅調味廃液を発電に活用し、地域の環境負荷の軽減
	和歌山高専すいそ組	御坊市	水素社会構築へ向けたシミュレーション及び普及啓発活動
特別賞	玉田 卓	白浜町	県内企業や団体への排水処理技術の普及による水環境の改善

「和歌山県環境ポータルサイト」開設！

持続可能な社会の実現を目指すためには、県民の皆さまが環境について理解を深め、行動を変えていくことがますます大切になってきます。

県では、環境に関する様々な情報を一つにまとめた「和歌山県環境ポータルサイト」を開設しました。

下記URLもしくはQRコードよりぜひご覧ください。

和歌山県環境ポータルサイト
<https://wakayama-kankyo-portal.com/>



【主なコンテンツ例】

- 環境学習にも使える様々な基礎知識「環境問題を知ろう」
- 日常生活の取組で、自分のCO₂の削減量が分かる！「環境アクション」
- 問題に答えて理解を深めよう！「脱炭素クイズ」
- 国や県の補助金を紹介！「補助金・支援策」

和歌山県環境ポータルサイト
 イメージキャラクター
 「だったん」



和歌山県気候変動適応センターの活動

県では、地域の気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理及び提供等を行う拠点として、県庁脱炭素政策課に和歌山県気候変動適応センター（以下、「県センター」）を設置しています。

今年5月、県センターは、国立環境研究所気候変動適応センター（CCCA）による全国で唯一「ウメ」に特化した研究所である和歌山県果樹試験場うめ研究所（みなべ町）の取材に同行しました。この研究所では、品質の良いウメを安定して生産するため、省力・低コスト栽培技術や施肥技術の開発、新品種の育成に取り組んでいます。取材当日は、職員から暖冬でも不作にならず安定した生産が可能となる新品種の開発等の説明を受けました。

県センターでは、引き続き地域の気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集・発信を行い、県民の皆さまへの情報提供に努めていきます。

和歌山県気候変動適応センター
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/d00217803.html>



上記の取材の記事がCCCAの公式ホームページに掲載されています。

A-RLAT（気候変動適応情報プラットフォーム）「適応事例・データ」適応策インタビュー
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/interview/cs-067.html>



INFORMATION

太陽光発電設備、蓄電池等の補助事業を開始しています

県では、個人や事業者を対象とした太陽光発電設備、蓄電池等の補助事業を行っています。現在、募集を行っていますので、自宅や事業所へ太陽光発電設備や蓄電池等の設置を検討されている方はぜひホームページをご覧ください。

和歌山県ホームページ「和歌山県太陽光発電設備・蓄電池等導入支援事業補助金」
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/taiyoukouhojyo.html>



食品ロス削減に係る講演・トークショー（料理研究家 コウケンテツ）

主催：県庁環境生活部循環型社会推進課

日時：2025年10月26日（日）14:00～15:30

内容：14:00～ 講演「食品ロス削減の推進について」消費者庁消費者教育推進課食品ロス削減推進室
14:45～ トークショー「家庭から出る食品ロスを減らす工夫」料理研究家 コウケンテツ

場所：ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間
※一時保育、手話通訳、要約筆記有（要事前申込）

定員：150名程度（先着順）参加費無料

申込：2025年9月1日（月）～25日（木）まで（FAX又は申込フォーム）

問い合わせ先：県庁環境生活部循環型社会推進課
電話 073-441-2675 FAX 073-441-2685
MAIL e0318001@pref.wakayama.lg.jp

※詳細は、循環型社会推進課のホームページよりご確認ください。
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031800/index.html>



2050年
カーボンニュートラルわかやま

橋本市制20周年記念 SDGsはしもと環境フェア2025

市民や様々な団体の取組みをつなげて、持続可能な未来のための「大きな輪」をつくるイベントです。SDGsに触れることのできる、さまざまな体験や展示が目白押しです。ぜひご参加ください。

主催：橋本市

日時：2025年10月19日（日）

午前の部（展示・体験ブース他）9:30～12:00

午後の部（式典・講演会※入場整理券が必要です）13:30～15:00

場所：橋本市サカイキャニニング産業文化会館（橋本市高野口町向島135番地）

◎「温暖化クイズ」と「エコキャンドルづくり」で伊都・橋本地球温暖化対策協議会が出展します。
詳細はQRコードよりご確認ください。



SDGsはしもと
環境フェア2025
ホームページ

県センター通信

今号の表紙のイラストは、海底に沈積する海洋プラスチックごみを描いています。世界の海には既に推計約1億5000万トンのプラスチックが漂い、日本からは年間1.3万～3.1万トンのプラスチックが海へ流出しているとの環境省の推計が示されています。

流出したプラスチックは海底で朽ちることなく、未来世代への負債となります。気候変動と同様、進行の過程は見えにくくとも、対応の遅れは不可逆的な損失を招きます。国連環境計画は、プラスチック汚染は人為的に生じた危機であり人為的手段で解決可能と報告しています。

県内では、今号掲載の記事にもあるようにプラスチック削減に向けた取り組みがおこなわれています。身近なところでは、マイボトル携帯や買い物の選択でプラスチックごみを削減できます。企業・行政・市民が連携し、科学的データに基づく対策を重ね、遠い海底と遠い未来に対する責任を果たしていきましょう。

2025 vol.55



発行／和歌山県脱炭素政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2674 FAX: 073-433-3590
mail: e0320003@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4752
mail: wenet@wenet.info